

Endodontic Implications of Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw

薬物関連の顎骨壊死の歯内療法への影響

AAE ガイドライン

2010年、AAEは、ビスホスホネートに関連する顎骨壊死の歯内療法への影響に関する見解を発表し、「ビスホスホネートを服用しているすべての患者がONJのリスクがあると考えことは賢明であるようだ」と結論付けた。AAEはこれを再確認し、次の最新情報を提供するものとする。

2014年に、口腔および顎顔面外科医の米国協会は、薬物関連の顎骨壊死—2014年更新というポジションペーパーを発表した。タイトルの変更は、ONJが他の抗吸収薬および抗血管新生薬とも関連していることが反映されている。このペーパーには、包括的な文献レビューと、現在の知識を反映するためのAAOMSガイドラインの改訂が含まれている。

歯内療法からのONJのリスクに関して、報告書は次のように述べている。「データがない場合、委員会は、抜歯に匹敵する歯科インプラント配置後のONJのリスク、および骨の露出と操作を必要とする歯内または歯周処置のリスクを、考慮すべきであるとした。」AAEは、ビスホスホネートを服用しているすべての患者をONJのリスクがあると思なすことが賢明であることを再確認することに加え、歯内治療医は、抗吸収薬または抗血管新生薬を服用した患者のAAOMS診断、予防、および管理戦略に精通することを推奨している。